

令和7年度 3年生

久御山高校

シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

令和7年度 3年生シラバス

目 次

国語科	．．．．．	3-01
地歴・公民科	．．．．．	3-08
数学科	．．．．．	3-13
理 科	．．．．．	3-21
保健体育科	．．．．．	3-29
芸術科	．．．．．	3-33
英語科	．．．．．	3-36
家庭科	．．．．．	3-43
商業科	．．．．．	3-45
総合的な探究の時間	．．．．．	3-46

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-01	国語	論理国語	3	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- 2年次に履修した「論理国語」を踏まえ、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章について、より多くの作品を一層深く学習する。
- 読解を中心としながら、表現力を高めることができるような取り組みも行う。

学習目標

- (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習方法

使用教科書【三省堂704 新 論理国語】

- 予習では、本文を音読し、漢字・語句の意味を辞書で調べておく。
- 授業では、黒板の板書だけでなく、説明されている事柄をノートにメモし、復習に役立てる。
- 指示された課題・宿題等はきちんと家庭学習で済ませておく。
- テスト前には、大意以外にも、指示語・接続詞・抽象的な箇所の説明・理由の説明などの予想問題を作ってみる。

評価方法

知識・技能 30 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 50 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月							
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬								
読むこと	環境について考える	■	■	■	■								■	■	■											■	■	■				■	■	■					
	文化・芸術について考える	■				■	■	■	■				■	■	■													■	■	■				■	■	■			
	知のあり方について考える	■									■			■	■	■		■	■	■	■	■								■	■				■	■	■		
	社会のあり方について考える	■												■	■	■											■			■	■				■	■	■		
書くこと	説得力のある文章を書く	■									■			■	■	■																				■	■	■	
	報告文を書く	■												■	■	■											■										■	■	■
	自己推薦文を書く	■												■	■	■																					■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-02	国語	文学国語	3	S・A文	2	必修

何を学ぶか

- 2年次までの学習を踏まえ、近代以降の文学作品を読み味わい、語彙力と言語感覚を磨く。また、それらを活用する資質・能力を養う。
- 作品理解に必要な教養や知識を身につける。

学習目標

- 近現代の文学作品や文章によって文学に対する知識や理解を深める。
- 様々な文章に触れることで、豊かな感性や情緒を養う。
- 小説を執筆することができる。

学習方法

使用教科書【三省堂703 新 文学国語】

- 新しい文章に取り組む際には本文を読んでおくこと。また、分からない漢字や語句については事前に調べておくこと。
- 分からない点は次の授業までに解決しておくこと。答えを丸暗記するのではなく、自分で考え、読み取れる力を身につけることを心がけること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでもよい。

評価方法

知識・技能 30 % : 定期考査、小テストにより評価する。

思考・判断・表現 50 % : 定期考査、学習課題により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
読む	小説	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○					○	○				○	○			
	詩歌	○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○								○	○					
	表現技法	○												○	○	○	○	○	○	○					○	○								
書く	意見文	○											○	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○	○					
	創作	○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○		○	○			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-03	国語	文学国語	3	P	2	必修

何を学ぶか

- 近代以降の文学作品によって日本語の文学的側面を学び、その知識や教養を身につける。また、それらを活用する資質・能力を養う。
- 作品理解に必要な教養や知識を身につける。

学習目標

- 近現代の文学作品や文章によって日本語の文学に対する知識や理解を深める。
- 様々な文章に触れることで豊かな感性や情緒を養う。
- 小説を執筆することができる。

学習方法

使用教科書 【三省堂703 新 文学国語】

- 新しい文章に取り組む際には必ず本文を読んでおくこと。また分からない漢字や語句については調べておくこと。
- 分からない点は次の授業までに解決しておくこと。答えを覚えるのではなく、自分で考え、読み取れる力を身につけることを心がけること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでもよい。

評価方法

知識・技能 30 % : 定期考査、小テストにより評価する。

思考・判断・表現 50 % : 定期考査、学習課題により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
読む	小説	■	■	■	■	■	■							■	■	■	■	■	■								■	■	■	■	■	■	■	■
	詩歌	■									■	■	■	■	■	■												■	■	■	■	■	■	■
	表現技法	■												■	■	■										■	■		■	■	■	■	■	■
書く	意見文	■												■	■	■							■	■			■	■	■	■	■	■	■	■
	創作	■						■	■					■	■	■											■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-04	国語	古典探究	3	S・A文	3	必修

何を学ぶか

- 2年次までの学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深める。また、作品の文化的・社会的背景などに着目し、より深い学びにつなげていく。
- 古代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

- 作品やその内容を大まかに理解するだけでなく、文法・句法を読解に生かすことで、より深い理解を目指す。
- 作品そのもののだけでなく、その背景にも目を向け、日本語文化を担うことができるようになる。
- 入試などを見据え、文法事項や知識を駆使して、自力で読解できる力を身につける。

学習方法

使用教科書 【数研出版711 高等学校 古典探究】

- 予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
- 自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでよい。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
古文編	説話	■			■	■								■	■												■	■						
	文法	■	■								■	■		■	■												■		■	■				
	物語	■					■	■	■	■			■	■	■					■	■	■				■		■	■					
	日記	■											■	■	■								■	■	■			■	■					
漢文編	史伝	■											■	■	■												■	■						

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-05	国語	古典探究	3	A理・P	2	必修

何を学ぶか

- 2年次までの学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深める。また、作品の文化的・社会的背景などに着目し、より深い学びにつなげていく。
- 上代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

- 作品やその内容を大まかに理解するだけでなく、文法・句法を読解に生かすことで、より深い理解を目指す。
- 作品そのもののだけでなく、その背景にも目を向け、日本語文化を担うことができるようになる。

学習方法

使用教科書 【数研出版711 高等学校 古典探究】

- 予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
- 自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでよい。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
古文編	説話	■	■	■										■	■	■										■	■	■									
	文法	■	■								■	■	■	■	■	■										■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	物語	■						■	■	■	■	■	■	■	■	■				■	■	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	日記	■									■	■	■	■	■	■							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
漢文編	史伝	■									■	■	■	■	■	■										■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-06	国語	国語特講	3	S	2	選択

何を学ぶか

■1、2年で培ってきた国語力をより一層高めるため、現代文の演習を中心とした学習活動を行う。受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。

■また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

- 表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
- 読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
- 文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。

学習方法

使用教科書【三省堂704 新 論理国語】

■授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。

授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
現代文	演習		■	■							■	■	■	■	■	■			■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	表現						■							■	■	■	■	■						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-07	国語	国語特講	3	A文	3	選択

何を学ぶか

- 1、2年で身につけた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の2分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
- また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

- 表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
- 読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
- 文章読解を通して、自分と自分を取りまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
- 古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

学習方法

使用教科書 【三省堂704 新 論理国語】【数研出版711 高等学校 古典探究】

- 現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
- ①現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
- ②古典（古文＋漢文）：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
現代文	演習	斜線	■		■		■			■			斜線	斜線	斜線		■	■			■		■			斜線	斜線	■		斜線	斜線	斜線		
	表現	斜線				■					■	■	斜線	斜線	斜線				■					■	■	斜線	斜線			斜線	斜線	斜線		
	漢字・語彙	斜線	■		■		■				■			斜線	斜線	斜線		■	■			■		■			斜線	斜線	■		斜線	斜線	斜線	
古文	演習	斜線		■					■	■			斜線	斜線	斜線		■				■	■		■			斜線	斜線		■		斜線	斜線	斜線
	古典文法	斜線		■					■	■			斜線	斜線	斜線		■				■	■		■			斜線	斜線		■		斜線	斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-08	地理歴史	日本史探究	3	S・A文	3	選択

何を学ぶか

- (1) 原始古代から現代までの日本の歴史のなかで、特に近世・江戸幕末から明治・大正・昭和の近現代史を中心に学習する。
- (2) 日本文化の特色や伝統への理解を深める。
- (3) 大学入学共通テストを中心とした入試対策として問題演習を実施する。

学習目標

○原始古代から現代までの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培い、大学入試突破の基礎力を養成する。

学習方法

使用教科書【山川出版社705 詳説日本史】

- (1) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
- (2) 資料集や新聞やTV、DVDなどを活用し様々な情報を収集する。
- (3) 配布されるプリント類を綴じて、日本史ノートを作成する。
- (4) 課題となる文化関係プリントを教科書、資料集を活用して完成させる。
- (5) 過去の大学入学共通テスト問題などを中心に実践問題演習を進める。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
日本史探究	近世	■	■	■	■	■	■	■					■	■	■	■										■	■	■				■	■	■		
	明治	■							■	■	■	■		■	■	■		■	■	■								■	■	■				■	■	■
	大正・昭和	■																	■	■	■	■	■	■	■											
	現代社会	■																									■		■	■						
		■													■	■	■												■	■	■					

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-09	地理歴史	日本史探究	3	P	4	選択

何を学ぶか

- (1) 原始古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。
 (2) 日本の歴史に関する出来事の意義や、文化の特色・伝統への理解を深める。
 (3) 複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

- 原始古代からの日本史展開を世界の歴史と関連づけた総合的視野に立って探究し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で主体的に生きる資質・能力を培う。

学習方法

使用教科書【山川出版社705 詳説日本史】

- (1) 世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
 (2) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に探究する。
 (3) 資料集を活用したり、様々な情報(新聞やインターネットなどで)を収集し、考察する。
 (4) ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
 (5) 文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40% : 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
日本史探究	原始・古代	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												■	■			■	■		
	中世	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■					■	■	■	■	■	■		
	近世	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-10	地理歴史	世界史探究	3	S・A文	3	選択

何を学ぶか

・近代から現代までの世界の歴史を中心に学ぶことを通じて、現在の社会や自らの存在を歴史的な視点から捉えることの大切さも学んでいきます。

学習目標

- 1 世界が一体化した近・現代の歴史を学習し、現在の私たちの社会がどのような経過のなかで成立したかを理解することを目指します。
- 2 現代の人類が直面する諸課題を歴史的にとらえられるようにし、その解決方法を主体的に考えられようになることを目指します。

学習方法

使用教科書【山川出版社704 詳説世界史】

- 1 歴史の流れを、原因・事象・結果の因果関係で捉えていきます。
- 2 授業を軸に、家庭での復習を合わせて知識の定着を図ります。
- 3 地図や図を用いて縦と横のつながりを把握する授業を行います。
- 4 教科書の内容理解を基本としながら、視覚資料を用い具体的イメージをもちながら学習していきます。
- 5 進学希望者には放課後の進学補習、長期休業中の講習などを行います。
- 6 大学受験に対応する力をつけるため、大学入学共通テストや大学入試の問題演習を行います。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価す

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
世界史探究	アジア諸帝国の繁栄	■	■									■	■	■	■											■	■					■	■		
	近世ヨーロッパ	■		■	■	■	■						■	■	■												■	■					■	■	
	産業革命と環大西洋革命	■						■	■	■	■	■			■												■	■					■	■	
	欧米国民国家の形成	■												■	■	■	■	■	■								■	■					■	■	
	帝国主義	■												■	■	■	■					■	■	■	■	■		■	■					■	■
	20世紀の世界	■												■	■	■											■		■	■					■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-11	公民	政治・経済	3	S・A理	3	必修

何を学ぶか

本校公民科では、1年生の「公共」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、1年生の「公共」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

学習方法

使用教科書【数研出版705 政治・経済】

授業は

- (1)原則として教科書に沿って進める。
- (2)資料・ビデオ等の活用。
- (3)点検をするので必ずノートをとる。
- (4)小テストを行い、知識の定着を図る。
- (5)1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
- (6)授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	■	■	■									■	■	■																			
	現代経済のしくみ				■	■	■					■	■	■	■																			
	日本経済と福祉の向上							■	■	■	■																							
	国際政治の動向												■	■	■																			
	国際経済の動向															■	■	■	■	■														
	国際社会の課題と日本の役割																																	
	問題演習	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-12	公民	政治・経済	3	A文	4	必修

何を学ぶか

本校公民科では、1年生の「公共」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、1年生の「公共」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

学習方法

使用教科書【数研出版705 政治・経済】

授業は

- (1)原則として教科書に沿って進める。
- (2)資料・ビデオ等の活用。
- (3)点検をするので必ずノートをとる。
- (4)小テストを行い、知識の定着を図る。
- (5)1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
- (6)授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % 定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20 % 授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	■	■	■																														
	現代経済のしくみ	■			■	■	■	■																										
	日本経済と福祉の向上	■						■	■	■	■																							
	国際政治の動向	■															■	■	■															
	国際経済の動向	■															■	■	■	■	■	■	■											
	国際社会の課題と日本の役割	■																																
	問題演習	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-13	数学	数学Ⅱ	3	P	2	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。そのうち3年生では、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711 新編 数学Ⅱ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40 % : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
数学Ⅱ	式と証明・方程式	△											△	△	△	△											△	△				△	△	△	
	図形と方程式	△												△	△	△	△										△	△	△				△	△	△
	三角関数	△													△	△	△	△									△	△	△				△	△	△
	指数・対数関数	△	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				■	■	■								△	△	△				△	△	△
	微分法と積分法	△													△	△	△	△				■	■	■	■	■	■	△	△	△	■	■		△	△

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-14	数学	数学Ⅲ	3	A理	4	選択

何を学ぶか

- ・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
- ・関数では分数関数・無理関数について、極限では数列の極限とともに関数の極限を学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
- ・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。また、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
- ・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト及び私大の入試問題等の問題演習を行います。

学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力さを体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 数学Ⅲ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅲ	関数	■	■	■										■	■	■																		
	極限				■	■	■	■	■					■	■	■																		
	微分法とその応用									■	■	■		■	■	■																		
	積分法とその応用													■	■	■																		
	入試問題演習													■	■	■											■	■	■					

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-15	数学	数学B	3	A文	2	必修

何を学ぶか

- ・数学Bは、「数列」、「統計的な推測」を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
- ・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版712 新編 数学B】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学B	数列	△	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	△	△	△	△	■	■								△	△				△	△		
	統計的な推測	△											△	△	△	△			■	■	■	■	■	■	■	■	■	△	△	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-16	数学	数学C	3	A文	3	選択

何を学ぶか

- ・数学Cは、「ベクトル」、「複素数平面」、「式と曲線」を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
- ・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 数学C】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学C	ベクトル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																		
	複素数平面											■	■	■	■	■	■	■	■															
	式と曲線											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	入試問題演習																																	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-17	数学	数学C	3	A理	3	必修

何を学ぶか

- ・数学Cは、「ベクトル」、「複素数平面」、「式と曲線」を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強力さを体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 数学C】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による目標への到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学C	ベクトル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																		
	複素数平面																■	■	■	■														
	式と曲線																																	
	入試問題演習																																	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-18	数学	数学演習	3	S	2	選択

何を学ぶか

- ・数学演習は、就職時に必要となる基礎的な数学的思考の演習を行う。
- ・実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版714 新編 数学Ⅰ / 数研出版714 新編 数学A / 数研出版711 新編 数学Ⅱ】

- ・予習…使用教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
- ・復習…習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
理解できないところは、担当の先生に質問してください。

評価方法

- ・小テスト等による目標への到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返り状況を
中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」35%、「思考・判断・表現」35%、「主体的に学習に取り組む態度」30%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
科目/領域	単元	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
数学ⅠAⅡ	実用数学セミナー	△	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	△	△	△	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	△	△	△	■	■	△	△	△

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-19	数学	数学演習	3	A理	4	選択

何を学ぶか

- ・数学演習では、1・2年生で履修した数学ⅠAと数学ⅡB(C)の演習を行います。
- ・基本レベルの問題から実践レベルの問題までを扱い、その解説を行います。

学習目標

- 様々な問題を扱い数学的活動を通して以下の力の育成を目指します。
- ・基礎的な知識を習得し、事象を数学的に表現・処理する技能を身につける。
- ・事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し発展的に考察する力を身につける。
- ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う。
- 最終的に様々な入試問題に対応できる力を身につけます。

学習方法

使用教科書

【数研出版 714 新編 数学Ⅰ / 714 新編 数学A / 711 新編 数学Ⅱ / 712 新編 数学B / 710 新編 数学C】

使用副教材

【数研出版 ベーシックスタイル 数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B・C(ベクトル) 受験編】

予習…使用教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。

復習…習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。わからないところは担当まで質問して下さい。

毎日、予習・復習を行うことが大切です。さらに進学に向けた取り組み(講習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めることができます。

評価方法

知識・技能 40 % : 主に定期テスト、課題テスト、小テスト等により評価します。

思考・判断・表現 40 % : 主に定期テスト、課題テスト、小テスト等により評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 主に提出課題や振り返り等により評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
数学 ⅠAⅡBC	数学ⅠAⅡBC 基本	△	■	■	■	■	■	■	■	■			△	△	△	△										△	△				△	△	△	
	数学ⅠAⅡBC 応用	△						■	■	■	■	■		△	△	△	■	■	■	■	■						△	△				△	△	△
	数学ⅠAⅡBC 演習	△												△	△	△	△								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-20	数学	数学演習	3	P	2	選択

何を学ぶか

- ・数学演習では、1年生で履修した数学ⅠAの演習を行います。
- ・教科書レベルの基本問題から実践レベルの問題までを扱い、その解説を行います。

学習目標

- 様々な問題を扱い数学的活動を通して以下の力の育成を目指します。
- ・基礎的な知識を習得し、事象を数学的に表現・処理する技能を身につける。
- ・事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し発展的に考察する力を身につける。
- ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う。
- 最終的には入試問題に対応できる力を身につけます。

学習方法

使用教科書【数研出版 714 新編 数学Ⅰ / 714 新編 数学A】
 使用教材【数研出版 新課程リンク数学演習Ⅰ・A受験編 a+b+c】

予習・・・使用教材に目を通し、問題の解法について理解に努めて下さい。
 復習・・・習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きなおします。理解できないところは担当に質問して下さい。

評価方法

知識・技能 40 % : 主に定期テスト、小テスト等により評価します。

思考・判断・表現 40 % : 主に定期テスト、小テスト等により評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 主に提出課題や振り返り等により評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学ⅠA	数学ⅠA approach	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■															
	数学ⅠA basic	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	数学ⅠA challenge	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-21	理科	物理基礎	3	P	2	必修

何を学ぶか

自然界で起こる現象は複雑ですが、その奥底には共通する規則性・法則性を見出すことができます。理科の学習では、生物界も含めた自然界の物質を対象として、物質についての知識を増やし、その変化や運動の仕組み・法則性を理解していきます。物理基礎では、力と運動、熱、波と音、電磁気、社会とエネルギーについて学びます。それらの範囲の中で、スポーツに関わる話題も多く取り上げます。

学習目標

自然界で起こる物理的な現象に規則性・法則性を見だし、諸現象をそれによって説明できることをめざします。それにより「科学的なものの見方・考え方」を養い、物事を合理的に判断する力を伸ばすことをめざします。また、実験・実習・作業を通じて、自然を探究する方法を学び、自然への興味・関心や働きかけへの意欲を高めます。これらを通じて、自然と生活・社会との調和や災害などへの科学的な意識を深めます。

学習方法

使用教科書【数研出版708 新編 物理基礎】

- ・力学・熱・波と音・電磁気・社会とエネルギーの領域があり、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。
- ・多くの場合、規則性・法則性は数学の式を用いて表すので、数学の知識が大切になります。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テストについての得点評価

思考・判断・表現 30% : 定期考査、小テストについての得点評価

主体的に学習に取り組む態度 20% : 実験・実習、学習の振り返りについての取組評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
物理基礎	運動の表し方	■	■	■	■	■																												
	運動の法則	■						■	■	■	■	■																						
	運動とエネルギー	■														■	■	■	■															
	熱とエネルギー	■																		■	■													
	波の性質	■																					■	■										
	音波	■																								■	■							
	電流の流れ方	■																									■							
	電気の利用	■																												■				
	物理学と社会	■	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	理科	物理	3	A理	6	選択

何を学ぶか

自然界で起こる現象は複雑ですが、その奥底には共通する規則性・法則性を見出すことができます。理科の学習では、生物界も含めた自然界の物質を対象として、物質についての知識を増やし、その変化や運動の仕組み・法則性を理解していきます。物理では、力と運動、熱力学、波動、電磁気、原子と原子核について、「物理基礎」よりもいっそう広く深く学びます。

学習目標

自然界で起こる物理的な現象の法則性を明らかにし、諸現象をそれによって説明できることをめざします。それにより「科学的なものの見方・考え方」を養い、物事を合理的に判断する力を伸ばすことをめざします。また、実験・実習・作業を通じて、自然を探究する方法を学び、自然への興味・関心や働きかけへの意欲を高めます。これらを通じて、自然と生活・社会との調和や災害などへの科学的な意識を深めます。

学習方法

使用教科書【数研出版706 物理】

・力学・熱力学・波動・電磁気・原子の領域ごとに、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。

評価方法

知識・技能 50%：定期考査、小テストについての得点評価

思考・判断・表現 30%：定期考査、小テストについての得点評価

主体的に学習に取り組む態度 20%：実験・実習、学習の振り返りについての取組評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
物理	力と運動	△	■	■	■	■	■	■	■				△	△	△	△										△	△				△	△	△	
	熱と気体	△									■	■	△	△	△	△	■									△	△				△	△	△	
	波	△												△	△	△	■	■	■	■												△	△	△
	電気と磁気	△													△	△	△				■	■	■	■	■	■	△	△				△	△	△
	原子	△											△	△	△	△										△	△	■	■			△	△	△

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-23	理科	化学	3	A理	2	必修

何を学ぶか

○脂肪族炭化水素・アルコールとその関連化合物・芳香族化合物・高分子化合物について構造やその性質を学習する。
○また、それぞれの物質がその特徴をいかして私たちの日常生活の中で利用されていることや、人間と化学の関わり方を考える。

学習目標

○有機化合物・高分子化合物の構造や性質を理解する。
○化学的な見方、考え方を養うとともに、自然科学全体に対する興味・関心を引起こすことを目標とし、2年次の『化学』から引き継ぐ。

学習方法

使用教科書 【数研出版706 化学】

○基礎的な学習を大切に、特に一つ一つの用語の定義や意味をしっかりと理解できるように丁寧に学習する習慣を身につける。また、実験や画像を通して、五感を通して物質をとらえていくことを重視する。
○化学基礎に比べて、数式の取り扱いが多くなるが、演習の時間も多く使いながら、問題を解くことで理論を実感できるようにする。あくまで、授業をしっかりと聞いて、授業の中ですべてのことを解決していく集中力を期待している。
○化学は実験からスタートする学問である。実験は積極的に行い、多くのことを実験から学んでほしい。実験レポートは丁寧に考察しながら書き上げるように取り組む。

評価方法

知識・技能 50% 【定期考査、小テスト】

思考・判断・表現 30% 【定期考査、実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20% 【提出物、実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
化学	有機化合物の分類と分析	斜線	■	■									斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	脂肪族炭化水素	斜線			■	■	■	■					斜線	斜線	斜線												斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	アルコールと関連化合物	斜線							■	■	■	■		斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	芳香族化合物	斜線											斜線	斜線	斜線	■											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	高分子化合物の性質	斜線											斜線	斜線	斜線		■	■	■	■							斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	天然高分子化合物	斜線											斜線	斜線	斜線					■	■	■	■			斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	合成高分子化合物	斜線											斜線	斜線	斜線										■	■	斜線	斜線		■	■		斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-24	理科	生物	3	A理	6	選択

何を学ぶか

- 生物誕生以来の進化の道筋および生物進化のしくみと方向性、また、生物の分類の基準を理解する。
- 細胞を構成する物質や細胞の性質、呼吸や光合成など細胞内での化学反応をミクロの視点から把握する。
- 既習事項の核酸について深く学び、遺伝情報の発現プロセスと、遺伝情報に基づく発生の過程を理解する。
- 動物や植物の環境応答について学び、生物が持つ環境適応力について理解を深める。
- 生物と生物、生物と環境との関わりについて学び、生態系の維持の重要性について考える。

学習目標

- 進化の結果、生物の多様性が生じたことを踏まえ、分子の比較から進化の道筋を求められるようになる。
- 酵素反応、遺伝子発現などの生命現象を理解し、自身の生命活動の本質を述べられるようになる。
- 化学との関わりを意識し、化学と生物の、両方の知識を踏まえうえて生命現象を論述できるようになる。
- 実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- 身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版704 生物】

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 副教材の資料集をよく読み込んでさらに理解を深めること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につけること。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50 % : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30 % : 【定期考査・実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 【提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼			▼			▼																	
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
生物	生物の進化	■	■	■									■	■	■											■	■	■				■	■	■			
	細胞と分子	■				■	■						■	■	■												■	■	■				■	■	■		
	代謝	■							■	■	■				■	■	■											■	■	■				■	■	■	
	遺伝情報の発現と発生	■										■	■			■	■	■									■	■	■				■	■	■		
	動物の反応と行動	■													■	■	■					■	■	■	■				■	■	■				■	■	■
	植物の環境応答	■													■	■	■										■	■	■				■	■	■		
	生物群集と生態系	■													■	■	■												■		■	■				■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-25	理科	生物	3	S・P	4	選択

何を学ぶか

- 生物誕生以来の進化の道筋および生物進化のしくみと方向性、また、生物の分類の基準を理解する。
- 細胞を構成する物質や細胞の性質、呼吸や光合成など細胞内での化学反応をミクロの視点から把握する。
- 既習事項の核酸について深く学び、遺伝情報の発現プロセスと、遺伝情報に基づく発生の過程を理解する。
- 動物や植物の環境応答について学び、生物が持つ環境適応力について理解を深める。
- 生物と生物、生物と環境との関わりについて学び、生態系の維持の重要性について考える。

学習目標

- 進化の結果、生物の多様性が生じたことを踏まえ、分子の比較から進化の道筋を求められるようになる。
- 酵素反応、遺伝子発現などの生命現象を理解し、自身の生命活動の本質を述べられるようになる。
- 化学との関わりを意識し、生命現象を論述するために化学の知識を応用できるようになる。
- 実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- 身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版704 生物】

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 副教材の資料集をよく読み込んでさらに理解を深めること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につけること。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50 % : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30 % : 【定期考査・実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 【提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
生物	生物の進化	△	■	■	■	■							△	△	△	△											△	△				△	△	△	
	細胞と分子	△						■	■	■				△	△	△											△	△				△	△	△	
	代謝	△									■	■	■																				△	△	△
	遺伝情報の発現と発生	△															■	■	■								△	△				△	△	△	
	動物の反応と行動	△																		■	■	■	■				△	△				△	△	△	
	植物の環境応答	△																						■	■	■		△	△				△	△	△
	生物群集と生態系	△																								■		△	△				△	△	△

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-26	理科	地学基礎	3	S	2	必修

何を学ぶか

- ・日常生活や社会との関連を測りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則を学習する。
- ・地球の環境の変化、日本の自然環境とその恩恵や災害などの地球や地球を取り巻く環境について学習する。
- ・地球や地球を取り巻く宇宙について、形成や現在までの変遷を一連の時間のながれをとらえながら学習する。

学習目標

- ・日常生活や社会との関わりについて興味を持ち、地球や地球を取り巻く環境への科学的な見方や考え方を養う。
- ・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから性格な情報を読み取る力を養う。
- ・地学的に探求する能力を育むために、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

学習方法

使用教科書【数研出版704 高等学校 地学基礎】

- ・授業前に必ず教科書に目を通しておくこと。またその際、図表・グラフ・写真などについても隅々まで目を通し、専門用語やわからない語句があれば調べておくこと。
- ・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- ・実習・実験には興味関心を持ち、積極的に参加し、考察を行うこと。
- ・実験レポート等の課題や提出物は丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50% : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30% : 【定期考査・実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20% : 【授業課題・提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼			▼																		
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
地学基礎	活動する地球	△	■	■	■	■	■						△	△	△	△										△	△				△	△	△		
	移り変わる地球	△						■	■	■	■		△	△	△	△										△	△				△	△	△		
	大気と海洋	△										■				■	■	■	■							△	△						△	△	△
	地球の環境	△												△	△	△	△										△	△		■	■		△	△	△
	太陽系と宇宙	△												△	△	△					■	■	■	■	■	■	△	△					△	△	△

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-27	理科	理科基礎演習	3	A文	3	選択

何を学ぶか

- 理科の基礎科目の復習および、大学入試問題の演習を行う。
○内容に関しては、受講者の進路希望によって調整する。

学習目標

- 入試で必要な基本的知識、科学的思考力の養成を目指す。また頻出となってきた考察問題に対応するため、日常生活と科学との関わりについて関心を持ち、応用する姿勢を身につける。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 化学基礎 / 数研出版707 生物基礎 / 数研出版704 高等学校地学基礎】

- 各教科の単元毎に問題演習を行い、必要に応じて既習事項の復習を行う。
○大学入学共通テストや私大の過去の入試問題も随時取り扱う。
○模擬試験も積極的にチャレンジして、さらに実践力を伸ばす。
○身近な科学について、既習事項と関連するニュースを選びレポート作成を行う。

評価方法

知識・技能 50 % : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30 % : 【定期考査・小テスト・実験プリント】

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 【授業課題・実験プリント】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生物基礎	生物の特徴	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■											■	■	■	■	■	■	■	■
	ヒトの体内環境の維持	■												■	■	■	■	■	■	■							■	■	■	■	■	■	■	■
	生物の多様性と生態系	■												■	■	■	■	■	■	■							■	■	■	■	■	■	■	■
化学基礎	物質の構成と化学結合	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										■	■	■	■	■	■	■	■
	物質の変化	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-28	理科	科学実験	3	S	2	選択

何を学ぶか

自由研究のテーマとなるような観察や実験を中心とした授業を行い、身近な自然現象や科学技術への興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を深める。

学習目標

- 各分野について基礎知識を習得し、自然に法則性があることを理解する。
- 実習・実験を通じて、科学的視点に基づいた自然探究の方法論を身につけ、意欲・関心を高めることを目指す。
- 正しく安全な実験技能を身につけることを目指す。
- 自ら仮説や課題を設定し、科学的に探究する力や科学的な根拠を基に表現する力を養う。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 化学基礎 / 数研出版707 生物基礎 / 数研出版704 高等学校地学基礎】

- 講義を通して基礎知識の理解を深める。
- 実習・実験には興味関心をもちながら取り組む。
- 各実験を通して、レポートのまとめ方や考察の仕方を学習する。
- プレゼンテーション等を通して、実験結果を科学的な視点で考察し、発表する力を身に付ける。
- 他者の発表にも興味をもち、積極的に質問やディスカッションを行う力を身に付ける。

評価方法

知識・技能 35% : 【小テスト・実験技能】

思考・判断・表現 35% : 【実験レポート・発表】

主体的に学習に取り組む態度 30% : 【実験レポート・発表】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域/単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
生物分野	斜線	■	■	■	■							斜線	斜線	斜線										斜線	斜線				斜線	斜線			
化学分野	斜線					■	■	■	■			斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線		
地学分野	斜線									■	■		斜線	斜線	斜線	■										斜線	斜線				斜線	斜線	
物理分野	斜線												斜線	斜線	斜線		■	■	■	■						斜線	斜線				斜線	斜線	
課題研究	斜線												斜線	斜線	斜線						■	■	■	■	■	■	斜線	斜線	■	■		斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-29	保健体育	体育	3	S・A	2	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館書店701 現代高等保健体育】

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテスト、身体づくりを行う。
- ・その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。活動は前期・中期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。グループで協力し、各種目の技術向上を目指す。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目／領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体 育	男	集団行動・スポーツテスト	■	■																															
		体づくり運動			■																														
	女	体育理論									■																								
		剣道				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		サッカー				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		バスケットボール				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		バレーボール				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		バドミントン				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		テニス				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		卓球				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ソフトボール				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		ダンス				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		陸上競技				●	●	●	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

■は必修種目 ●は選択して実施する種目

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-30	保健体育	体育	3	P	3	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館書店701 現代高等保健体育】

- ・1学期始めにオリエンテーション、集団行動・スポーツテストを行い、1学期に1種目、2学期は3種目、3学期は球技を1種目実施する。
- ・各種目とも基本的な体力、実践的な技能の習得を目指し、より高度なゲームができるよう授業を計画、実践することを目指す。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
体育	集団行動・スポーツテスト	✓	■	■										✓	✓	✓									✓	✓					✓	✓	✓	
	剣道	✓			■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓									✓	✓					✓	✓	✓	
	男:テニス・体育理論	✓			■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓									✓	✓					✓	✓	✓	
	女:バドミントン・体育理論	✓			■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓									✓	✓					✓	✓	✓	
	ゴルフ	✓												✓	✓	✓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓	✓	✓	
	男:バドミントン	✓												✓	✓	✓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	女:ソフトボール	✓												✓	✓	✓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	男:サッカー	✓												✓	✓	✓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	■	■	✓	✓	
	女:テニス	✓												✓	✓	✓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	✓	✓	■	■	✓	✓	
	長距離走	✓												✓	✓	✓									■	✓	✓	■	■	✓	✓	✓	✓	

* 剣道は、3年続けて受けた授業の確認として6月末に昇級審査を受ける。

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-31	保健体育	スポーツ I	3	S	2	選択

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館書店701 現代高等保健体育】

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・トレーニングを行う。その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。
- ・活動は前期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。
- ・グループで協力し、各種目の技術向上を目指し、生涯体育に繋げることを目標とする。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
スポーツ Ⅰ	男子・ 女子	集団行動・トレーニング	△	■	■	■								△	△	△	△									△	△					△	△	△	
		前期選択	△				■	■	■	■	■	■	■	△	△	△	△									△	△					△	△	△	
		中期選択	△												△	△	△	△	■	■	■	■	■	■			△	△					△	△	△
		後期選択	△												△	△	△	△								■	■	■	■	△	△	■	■	△	△

*種目は
 ・ネット型(テニス・バドミントン・バレーボール)
 ・ベースボール型(ソフトボール)
 ・ゴール型(サッカー・バスケットボール)

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-32	保健体育	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	3	P	4	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701 現代高等保健体育】

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能・種目のルールや技術理論等の理解度を評価する。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録などの応用技能、自己記録・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
スポーツ Ⅰ Ⅱ Ⅲ	剣道(男・女)	〓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	バスケットボール(女子)	〓	■	■	■	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	バレーボール(女子)	〓	■	■	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	陸上競技(男・女)	〓	■	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	硬式野球(男子)	〓	■	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	サッカー(男子)	〓	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			
	ソフトテニス(女子)	〓	■	■	■	■	■	■	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-33	芸術	音楽Ⅲ	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、社会生活の中で音楽が生かされている職種、場面について具体的に知り、そのために必要な最低限の知識・技能を学ぶ。

学習目標

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、そのために必要な最低限の知識・技能を学ぶ。
・一般教養として最低限の音楽的知識を身につける。

学習方法

使用教科書【教育芸術社701 Joy of Music】

- ①音楽Ⅰ、Ⅱで学んできたことを基礎とし、歌唱、器楽、鑑賞に取り組む。
- ②幼児教育分野や高齢者向けの音楽、音楽療法、リトミックなどの実際について知る。

評価方法

知識・技能 35 % :

創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている。
鑑賞では芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている。

思考・判断・表現 35 % :

知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。

主体的に学習に取り組む態度 30 %
:

音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
音楽Ⅲ	歌唱	〇	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〇	〇	〇	〇	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〇	〇	〇	●	●	〇	〇			
	器楽	〇	●	●	●	●	●	●	●	●	〇	〇	〇	〇	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〇	〇	〇	●	●	〇	〇				
	鑑賞	〇	●		●		●		●		●		〇	〇	〇	〇	●	●	●		●				〇	〇	〇	●		〇	〇			
	実技テスト	〇								●	●		〇	〇	〇	〇								●	●	〇	〇	〇	●		〇	〇		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-34	芸術	美術Ⅲ	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

【企画力・発想力・表現力・提案力（プレゼンテーション能力）を総合的に習得および向上する】

- ・総合課題 高校での美術教育の集大成として総合的課題を制作する。
- ・鑑賞： 各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像で接し、自己の美的感覚や表現力を高める。

学習目標

- ・総合課題 調査・分析方法／アイデア展開方法／コンセプト立案方法／イメージ図制作／立体模型制作／最終提案（プレゼンテーション）を習得および実践する能力を養う。
- ・鑑賞 各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広げ、作品完成度の向上を図る。

学習方法

使用教科書【光村図書701 美術3】

- ・総合課題：『自分が住みたい家』（外観／エクステリア）を一般的な『開発プロセス』を踏んで提案する。
 - ・『家』を構成する要素（モノ／こと）を抽出し、家に対するこだわり、『提案成立のための条件』を見出す。
 - ・アイデアを自由な発想で展開をする。（ケント紙やスチレンボードで作成できる範囲内での提案とする）
 - ・基本コンセプトをパネルにまとめて、みんなの前で提案（プレゼンテーション）する。
 - ・コンセプトに基づいた『自分が意図する家』の外観（エクステリア）がわかるイメージ図を制作する。
 - ・イメージ図を三次元的に把握した上で、その立体模型を制作する。（ケント紙／スチレンボードを使用）
 - ・基本コンセプトパネル、イメージ図、立体模型を示してみんなの前で最終提案（プレゼンテーション）する。
- ・鑑賞： 各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像を通して接する。

評価方法

- 知識・技能 35 % : ・基本的な表現技能を習得し、課題に応じた表現で丁寧に（完成度高く）仕上げられたか。
- 思考・判断・表現 35 % : ・課題を理解し、自ら主題を見つけ、自己の感性を働かせ、自分の意図した作品を完成するために最適な表現を創意工夫したか。
- 主体的に学習に取り組む態度 30 % : ・素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたり、多様な文化への理解を深められたか。
- ・主体的に知識、および技能、表現力を身につけることに努めたか。
- ・課題制作に対して、困難な状況に直面しても決してあきらめず粘り強く取り組めたか。
- ・すべての作品を完成させて提出することを原則とする。
- ・出欠遅刻過多や授業態度について、点数化はしないが評価をする上での対象項目とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
美術Ⅲ	総合課題	調査・分析	△	■	■	■	■							△	△	△	△										△	△				△	△	△		
		アイデア展開	△				■	■	■	■	■			△	△	△	△											△	△				△	△	△	
		コンセプト立案	△								■	■	■	△	△	△	△												△	△				△	△	△
		イメージ図制作	△										■	■	■	■	■	■	■	■									△	△				△	△	△
		立体模型制作	△											△	△	△	△	△	△	△				■	■	■	■	■		■	■		△	△	△	
		プレゼンテーション	△										■	■	■	■	■	■	■	■								△	△				■	■	■	
	鑑賞	鑑賞	△	■			■							△	△	△	△	△	△				■					△	△				△	△	△	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-35	芸術	書道Ⅲ	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

・仮名の書・漢字の書・漢字仮名交じりの書・表装を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、さまざまな形態で制作することで、書の美との関わりを深めるとともに、表現の技能を身につけ、創造する喜びを体感します。
 ・書の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養います。

学習方法

使用教科書【教育図書702 書Ⅲ】

・仮名の書…大字仮名に取り組み、線質や潤渇の表現を学び、半切作品を制作します。
 ・漢字の書…数多くの古典より一点を選び半切臨書作品を制作します。大筆による一字書創作にも取り組みます。
 ・漢字仮名交じりの書…これまでに学習した内容をふまえてより高度な表現に取り組みます。
 ・表装…一字書以外の作品はそれぞれ裏打ちをし、軸・パネルに仕立てて展示形態の多様性と視覚的効果を理解します。

評価方法

知識・技能 35% :

- ・書の表現の方法や、形式・表現の多様性について、表現効果や風趣の視点をもって、実感的に理解を深めている。
- ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身につけ、表している。

思考・判断・表現 35% :

- ・書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し、個性豊かに表現を工夫している。
- ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。

主体的に学習に取り組む態度 30% :

- ・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の創作的活動に取り組もうとしている。
- ・書についての知識や技能を習得するために粘り強く取り組んでいる。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目／領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
書道Ⅲ	仮名	■			■	■		■	■	■			■	■	■											■	■				■	■		
	硬筆	■	■										■	■	■	■										■	■				■	■		
	漢字	■														■	■	■										■	■					
	表装	■										■	■	■	■	■				■	■					■	■				■	■		
	漢字仮名交じり	■																					■	■	■		■	■				■	■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-36	外国語	英語コミュニケーションⅢ	3	S・P	4	必修

何を学ぶか

「英語コミュニケーションⅡ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動(主に教科書)、聞く活動(主に副教材)、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRA2`B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【東書CⅢ702 Power On English Communication Ⅲ】

- ① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
- ② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
- ③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
- ④ 定期的実施する単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30% : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業プリント・ノート、課題プリント、授業の取り組み状況・振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語 コミュニケーションⅢ	Lesson 1	斜線	■	■									斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 2	斜線			■	■							斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 3	斜線					■	■	■				斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 4	斜線								■	■	■	斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 5	斜線											斜線	斜線	斜線	■	■									斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 6	斜線												斜線	斜線	斜線		■	■	■						斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 7	斜線												斜線	斜線	斜線				■	■	■				斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 8	斜線												斜線	斜線	斜線					■	■	■			斜線	斜線				斜線	斜線		
	Lesson 9	斜線												斜線	斜線	斜線								■	■	■	斜線	斜線				斜線	斜線	
	Lesson 10	斜線												斜線	斜線	斜線									■		斜線	斜線		■	■	斜線	斜線	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-37	外国語	英語コミュニケーションⅢ	3	A	4	必修

何を学ぶか

・「英語コミュニケーションⅡ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動(主に教科書)、聞く活動(主に副教材)、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRA2~B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【三省堂CⅢ706 MY WAY English Communication Ⅲ】

- ① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
- ② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
- ③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
- ④ 定期的実施する単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30% : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業プリント・ノート、課題プリント、授業の取り組み状況・振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
科目/領域	単元	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語 コミュニケーションⅢ	Lesson 1	斜線	■	■										斜線	斜線	斜線												斜線	斜線	斜線				
	Lesson 2	斜線			■	■								斜線	斜線	斜線												斜線	斜線	斜線				
	Lesson 3	斜線					■	■	■					斜線	斜線	斜線												斜線	斜線	斜線				
	Lesson 4	斜線								■	■	■		斜線	斜線	斜線												斜線	斜線	斜線				
	Lesson 5	斜線												斜線	斜線	斜線	■	■									斜線	斜線	斜線					
	Lesson 6	斜線												斜線	斜線	斜線		■	■	■							斜線	斜線	斜線					
	Lesson 7	斜線												斜線	斜線	斜線			■	■	■						斜線	斜線	斜線					
	Lesson 8	斜線												斜線	斜線	斜線				■	■	■					斜線	斜線	斜線					
	Lesson 9	斜線												斜線	斜線	斜線						■	■	■			斜線	斜線	斜線					
	Lesson 10	斜線												斜線	斜線	斜線								■	■		斜線	斜線	斜線	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-38	外国語	論理・表現Ⅲ	3	A	2	必修

何を学ぶか

問題演習を通して、学んだ英文法を定着させ、実際のコミュニケーションや英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

- ・比較的易しい英文を使って、すでに学習した文法事項を整理し、文法の基礎的な力を構築する。
- ・問題演習を通して、情報や考えなどを場面や状況に応じて書く能力を伸ばすとともに、この能力を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

学習方法

使用教科書【数研 論Ⅲ708 EARTHRISE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION STANDARDⅢ】

- ① 予習を行い、練習問題を解いておく。
- ② 各レッスンの例文で使われている文法事項を確認する。
- ③ 終えた問題を復習し、さらに理解を深める。
- ④ 学習した文法事項などを用いて Activities で自分の考えを伝え合う。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼			▼																	
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
論理・表現Ⅲ	Lesson 1・2	斜線	■	■	■	■							斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 3・4	斜線								■	■	■		斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 5・6	斜線											■	■	■		斜線	斜線	斜線								斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 7・8	斜線															斜線	斜線	斜線								斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 9・10	斜線															斜線	斜線	斜線								斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 11・12	斜線															斜線	斜線	斜線								斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 13・14	斜線															斜線	斜線	斜線								斜線	斜線				斜線	斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-39	外国語	論理・表現Ⅲ	3	S・P	2	必修

何を学ぶか

問題演習を通して、学んだ英文法を定着させ、実際のコミュニケーションや英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

- ・比較的易しい英文を使って、すでに学習した文法事項を整理し、文法の基礎的な力を構築する。
- ・問題演習を通して、情報や考えなどを場面や状況に応じて書く能力を伸ばすとともに、この能力を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

学習方法

使用教科書【開隆堂702 APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅲ】

- ① 予習を行い、練習問題を解いておく。
- ② 各レッスンの例文で使われている文法事項を確認する。
- ③ 終えた問題を復習し、さらに理解を深める。
- ④ 学習した文法事項などを用いてConnecting Activityで自分の考えを伝え合う。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
論理・表現Ⅲ	Lesson 1・2	■	■	■	■									■	■	■																		
	Lesson 3・4	■						■	■	■				■	■	■																		
	Lesson 5・6	■									■	■	■																					
	Lesson 7・8	■												■	■																			
	Lesson 9・10	■												■	■	■																		
	Lesson 11・12	■															■	■	■	■														
	Lesson 13・14	■																					■	■	■		■	■						

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-40	外国語	英語実践	3	S	2	選択

何を学ぶか

- ・言語活動を通して、表現力や発信能力を養う。
- ・問題演習を通して、読解・語彙・文法・リスニング等の基礎的な英語力を定着させるとともに、論理的な思考力を養う。

学習目標

- ・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英語での発信能力及び論理的思考力・表現力を身につける。
- ・総合的な英語能力を養う。

学習方法

使用教材【旺文社 Interactive skills 4 CEFR A2 LEVEL】

- ・問題演習を通して、英語圏をはじめとする人々のものの考え方や文化を知り、その内容に対しての自分の考えを英語で発信する。
- ・ペアやグループで意見交換・協議等を行うことで、英語を用いて考えを発信・共有する。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼																					
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
英語実践	Lesson 1・2・3	斜線	■	■	■	■	■						斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線		
	Lesson 4・5・6	斜線							■	■	■	■		斜線	斜線	斜線											斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 7・8・9	斜線											■		斜線	斜線	斜線		■	■	■	■					斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 10・11・12	斜線													斜線	斜線	斜線					■	■	■	■	■		斜線	斜線				斜線	斜線	斜線
	Lesson 13・14・15	斜線														斜線	斜線	斜線									■	■	■	斜線	斜線	■	■	斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-41	外国語	英語演習	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

- ・四年制大学受験レベルの問題に取り組み、大学入試問題に対応する力を養う。
- ・問題演習を通して英文読解力を伸ばすとともに、論理的思考能力を養う。

学習目標

- ・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文読解力を高める。
- ・内容把握に重点をおいた設問等に答えながら長文読解の基礎を確認することで、入試長文に対応する力を養う。
- ・卒業時に英検2級レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教材 【いいずな書店 Smart Reader Basic 】

- 1 ワークブックを用いて、予習と復習を行う。
- 2 演習と解答・解説を通して、英文の文構造や段落要旨を理解する。
- 3 小テストで本文で確認した英単語の定着を図る。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

		▼			▼			▼			▼			▼																				
科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
英語演習	Lesson 1・2・3	斜線	■	■	■	■	■						斜線	斜線	斜線	斜線										斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 4・5・6	斜線							■	■	■	■		斜線	斜線	斜線										斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 7・8・9	斜線											■				斜線	斜線	斜線							斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 10・11・12	斜線												斜線	斜線	斜線				■	■	■	■	■		斜線	斜線				斜線	斜線	斜線	
	Lesson 13・14・15	斜線												斜線	斜線	斜線										■	■		斜線	斜線	■	■	斜線	斜線

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-42	外国語	英語特講	3	A文	3	選択

何を学ぶか

- ・大学共通テスト、四年制大学受験レベルの問題に取り組み、大学入試問題に対応する力を養う。
- ・問題演習を通して英文読解力を伸ばすとともに、論理的思考能力を養う。

学習目標

- ・1、2年次に習得した英語力を土台とし、英文読解力を高める。
- ・多様なテーマ、論理構造、文体を持つ英文を読解することで、最新の入試問題にも対応できる力を養う。
- ・卒業時に英検2級レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教材【美誠社 英語長文演習アプローズ3訂版 vol.3】

- 1 予習・復習ノートを用いて、予習と復習を行う。
- 2 演習と解答・解説を通して、英文の文構造や段落要旨を理解する。
- 3 小テストで各Unitで学習する重要構文の定着を図る。

評価方法

知識・技能 50 % : 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現 30 % : 定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
英語特講	Lesson 1・2・3・4	■	■	■	■	■							■	■	■											■	■				■	■	■				
	Lesson 5・6・7・8	■						■	■	■	■	■		■	■	■																	■	■	■		
	Lesson 9	■										■	■		■	■	■																	■	■	■	
	Lesson 10・11・12・13	■															■	■	■	■															■	■	■
	Lesson 14・15・16・17	■																		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	Lesson 18・19・20	■																																	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-43	家庭	保育基礎	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

2年生で学んだ「家庭基礎」の保育分野の内容を、実習を多く取り入れながらより深く探求していく。

学習目標

保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【実教出版707 子どもの発達と保育 新課程版】

- ・保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。
- ・実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。
- ・周りの生徒と共同しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身につける。

評価方法

知識・技能 40% : ①小テスト ②被服製作
【保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている】

思考・判断・表現 30% : ①小テスト ②課題学習
【子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている】

主体的に学習に取り組む態度 30% : ①保育実習 ②提出物
【子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
保育基礎	子どもの保育	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																		
	子どもの発達	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																		
	子どもの生活	■						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	子どもの文化	■	■											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	子どもの福祉	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	保育実習	■								■				■	■	■					■						■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-44	家庭	フードデザイン	3	S	2	選択

何を学ぶか

2年生で学んだ「家庭基礎」の食分野の内容を、実験・実習を多く取り入れながらより深く探求していく。

学習目標

- ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習方法

使用教科書【実教出版703 フードデザイン 新課程】

主な教材：資料集（実教出版 生活学Navi）、プリント、制作キット、フードマスターシール

- ・授業の前に教科書を一読し、概要をつかんでおきましょう。
- ・毎時間、授業に集中し、プリントに記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
- ・実験・実習に対して積極的に取り組み、調理技術、手腕の上達を目指して努力しましょう。
- ・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしていきましょう。

評価方法

- 知識・技能 40% : ①定期考査 ②刺し子コースター製作
【栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。】
- 思考・判断・表現 30% : ①定期考査 ②課題学習
【多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる】
- 主体的に学習に取り組む態度 30% : ①提出物 ②レポート
【人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るため、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまで総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
フードデザイン	食生活と健康	■	■	■										■	■	■											■	■	■				
	栄養素のはたらきと食事計画	■		■	■	■	■	■	■	■				■	■	■												■	■	■			
	食品の特徴・表示・安全	■			■	■	■	■	■	■	■																		■	■	■		
	調理の基本	■				■	■	■	■	■	■	■	■		■	■												■	■	■			
	料理様式とテーブルコーディネート	■												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■			
	フードデザイン実習	■	■			■			■					■	■	■		■			■			■				■	■	■		■	
	食育	■												■	■	■					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-45	商業	ソフトウェア活用	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

- ・キャリア教育の一環として資格取得(情報処理2級受験)をする。
- ・日常生活やビジネスで生じる問題解決できる能力を伸ばす。
- ・社会人になったときの必要最低限のスキルを身につける。(ソフトウェアを含むICT)
- ・持続可能な社会で生きていくために必要な力を身につける。

学習目標

- ・企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。
- ・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習方法

使用教科書・問題集

『ソフトウェア活用』(190東法 商業737)

『全商情報処理検定試験模擬問題集2級ビジネス情報編』

『全商情報処理検定試験模擬問題集3級ビジネス情報編』1年次購入済み

上記の教科書と問題集を使用し、スキルを身につける。

実習中心授業なので出席は必須である。

評価方法

知識・技能 40 % : 定期考査・課題作成・課題発表

思考・判断・表現 40 % : 定期考査・課題作成・課題発表

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 出席率・振り返りシート課題発表

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
ソフトウェア活用	1年次の復習(主にExcel)	■	■	■									■	■	■	■											■	■				■	■	■			
	表計算ソフトウェア活用	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																	■	■	■		
	課題発表	■													■	■	■	■																■	■	■	
	VBAの活用	■												■	■	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						■	■	■
	情報処理検定2級問題	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名／科目名	学年	コース	単位数	備考
3-46	総合的な探究の時間 (体育理論)	3	P	1	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、運動をより効果的、効率的に実践できるための方法を学ぶ。
- ③ 科学的根拠に基づいた研究および発表により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

各種の運動の合理的な実践等の研究を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。各自のテーマをみつけて、研究する。
- ・代表者を決定し、体育系卒論発表会で学校代表として発表する。

評価方法

知識・技能 40% : 各自のテーマに基づいた研究結果および発表を評価する。

思考・判断・表現 30% : 各自のテーマ設定、仮説、研究に対する考察を評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 各自の研究に対する取り組み状況を評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な探究の時間 (体育理論)	剣道(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	バスケットボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	ソフトテニス(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	バレーボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	陸上競技(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	硬式野球(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■
	サッカー(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。

番号	教科名／科目名	学年	コース	単位数	備考
3-47	総合的な探究の時間	3	S・A	1	必修

何を学ぶか

- ・身近な中から課題を発見しその解決のために必要な計画の立て方を学ぶ。
- ・教科で得た知識と他者から得た多様な考え方を掛け合わせて課題の解決に必要な手法を見出す方法を学ぶ。
- ・様々な人々との話し合いを通じて、合意形成に必要なルールや他人を思いやること等について学ぶ。

学習目標

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を身に付ける。
- ・より良い社会の形成に主体的に関わることができる能力を身に付ける。
- ・協働的な学びを通じて、他人の考え方を柔軟に受け入れ、自己の在り方や生き方について考える力を身に付ける。

学習方法

- ・担当教員のもと、分野を設定し、生徒自身が自ら選択するゼミ方式で実施
- ・担当教員の教科や得意分野について、探究テーマや課題を用意し、課題解決に向けた探究活動を実施する。

評価方法

毎時間の活動内容(課題提出、グループ活動における貢献度)や成果発表、リフレクションシート、ポートフォリオ等により、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で総合的に評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
総合的な探究の時間	課題設定	■	■	■	■	■							■	■	■											■	■										
	探究活動								■	■	■	■	■	■	■	■											■	■									
	中間発表・再探究・最終発表	■													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	まとめ	■												■	■	■											■	■									

※各自(またはグループごとに)テーマを設定し、研究発表を行う。

